

1 策定の趣旨等

(1) 策定の趣旨

- 本格的な人口減少の進行による国内市場の縮小や人手不足に加え、世界的な半導体製造企業の隣県進出など、近年、本県の国際関連施策を取り巻く環境は大きく変化しており、こうした状況に的確に対応し、本県の発展につなげるためには、同施策を、より効果的・効率的に展開していくことが求められている。
- 国際関連施策について、それぞれの分野ごとの取組の方向性を踏まえつつ、相手国・地域の特性・ニーズ等も十分把握した上で、関係部局がより一層の連携を図りながら、戦略的に取り組む必要。
- 「国際関連施策の展開に当たっての基本的な考え方」や「国・地域別の特性・ニーズ等を踏まえた取組の方向性」等をまとめた「鹿児島県国際戦略」を策定。

(2) 位置付け

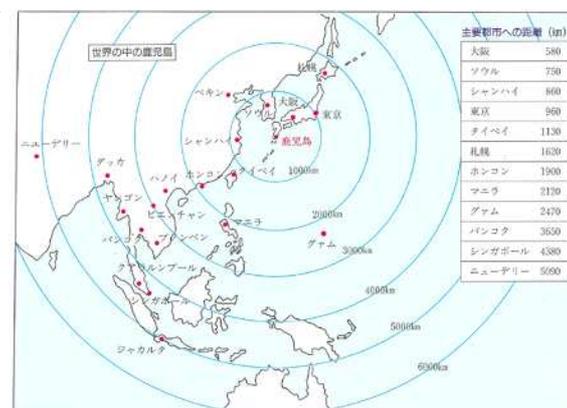
- 分野別の計画や方針である「『南の宝箱 鹿児島』輸出拡大ビジョン」などを踏まえ、国・地域別の取組の方向性等を示すもの。
- 国際情勢等がめまぐるしく変化する中で、現時点において、中・長期的な視点で取りまとめた戦略。

2 国際情勢等

- (1) 世界人口増加・国内人口減少
- (2) 経済・社会のグローバル化
- (3) 経済成長
- (4) 国際情勢の不安定化
- (5) デジタル化の進展、カーボンニュートラルへの対応

3 国際関連施策の展開に当たっての基本的な考え方

- 本県は、南北600kmに及ぶ広大な県土に、豊かな自然・食、個性的な伝統・文化、特色ある数多くの離島など、世界に誇れる魅力ある素材～ポテンシャル～を有している。
- アジアの主要都市に近接している本県は、南に開かれた地理的特性を有しており、南の玄関口として、現在、ソウルや上海、台北などとは国際定期航空路線で結ばれているほか、志布志港と川内港等は国際物流の拠点となっており、香港やシンガポールとは40年以上にわたり、定期的な交流を継続している。
- グローバル化やデジタル化の進展により、人・モノ・情報が地球規模で移動・流通するようになっている。我が国においては、人口減少に伴う国内市場の縮小や人手不足を背景に、海外に販路や人材を求めることの重要性がより高まっている。



- 本県が持続的に発展していくためには、このような国際情勢等に的確に対応し、本県が有するポテンシャル、南の玄関口としての地理的優位性、これまで培ってきた交流実績、それを支える交通基盤、これらを最大限生かして、県産農林水産物等の輸出拡大や海外からの誘客促進、製造業等における海外企業との取引拡大など、海外の活力を積極的に取り込み、鹿児島の稼ぐ力を向上させることが重要である。
- 国際的な視野と先見性、語学力、コミュニケーション能力等を持った次世代をリードするグローバル人材の育成を図る必要がある。
- 相手国・地域の特性やニーズ等を踏まえた国際関連施策をより分野横断的に推進し、相互に理解を深め、本県の利益・発展が相手国・地域の利益・発展につながる好循環を生み出すWin-Winの関係を構築していく必要がある。
- 九州という広域的な視点での、施策の企画立案・展開を図ることも必要である。

4 分野別の取組状況と今後の方向性

- (1) 農林水産物等の輸出拡大
- (2) 海外からの誘客促進
- (3) 製造業等における海外企業との取引拡大等
- (4) 外国人材の安定的な確保及び受入・定着
- (5) 国際都市にふさわしい交通インフラの充実・強化
- (6) 多文化共生の推進
- (7) 国際交流の推進